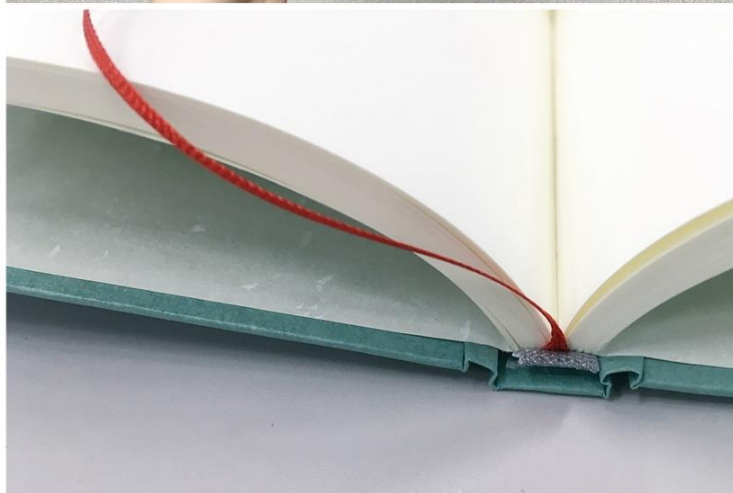


ジレジレする

ZINE 6



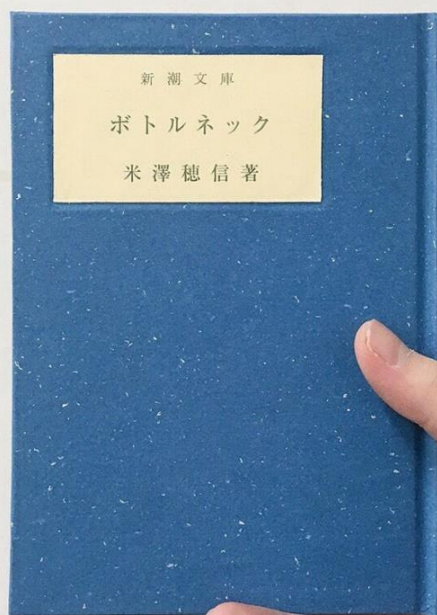


【手製本】

らるこが趣味で作っている、
手製本ノート。

花布や栞紐、表紙にもこだわり
製本しています。

読み古した大好きな文庫本を
ハードカバーに改装。
世界で一冊のもとして、新たに
蘇りました。



らるこ

Twitter: [@ralriru](https://twitter.com/ralriru)

Webpage: <http://coral12k.wixsite.com/ralriru>

飛び出る自由に、砂糖を少々

人生は自分が主役だ。代わり映えない日常生活もいいけれど、たまには癒しも必要だろう。

二月、飛行機でひたすらマレーシアまで南下し、そこから今度は北上し、タイの首都バンコクへ。さらに電車で十二時間程北上し、古都チェンマイへ赴いた。

何故ここまでやってきたかと言えば、友達の結婚式に参加する為。南へ北へ壮大な遠回りをしたのは、出来るだけお財布に鞆の中で休んでもらう為である。要するに金欠なのだ。

さて、結婚までの日数を片手で数えられるほどに迫った友達カップルに連れられ、カフェにやってきていた。都市の中心に位置し、有名なマッサー

ジ店まで徒歩五分程、沢山のお寺まで徒歩数分という観光の途中で寄りやすい場所だ。ここで撮影するので、興味があつたら見に来ないかと誘われ、人見知りの僕は新郎新婦よりドキドキしながらついてきたのだった。



場違い感のある人形に迎えられ、入ったそのカフェは木製の机や棚の優しさと、白い壁や天井の無機質さが調和していて、落ち着いていた。レジ横には手作り(?)スイーツが佇んでいた。

ここで働いている二人組は、大らかなKさんとしつかり者のTさん。面倒見の良さそうな優しい人たちだ。

観光客が多いのか、英語で書かれたメニュー表から、ぎこちない英語のTさんにティーラテを注文して、椅子に座った。語学堪能じゃなくても安心できそうだな、なんてぼんやり思った。

窓側の席、長閑な陽気と柔らかい風が気持ちよかった。談笑する数人が視界に映るが、声は空気に溶け込んで和やか。



ミルク多めのカフェラテに、自分好みの甘さになるように砂糖を加え、飲んでみた。肩の筋肉が解れるような穏やかな味だった。

カフェの奥にも部屋があった。そこは何十もの

カメラやフィルムが美術館内のレトロな作品のよ

うに並べられていて洒落ていた。Tさんの所有物

だと思いが、よくこれだけカメラを集めたものだ。

式当日は、年代物のカメラで撮影していたから、

定期的に手入れもしっかりしているのだろう。



ところで、お客さんいるのにカフェで撮影と驚

かれるかもしれない。大丈夫！ カメラの展示室

のような部屋のさらに奥にスタジオがあったのだ。

カフェ部分よりでかい（！）。バドミントンができ

るくらい。入口にGalleryと書いてあるから、普段は写真が飾られているのかもしれない。

新婚数日前の友達、Tさん、Kさんと供に僕

もスタジオ入り。さっきまでバリスタだった二人

組、カメラを手に気合十分。ん？ カフェ側に店

員はいない。え？ いいの？ ……そういう大ら

かなところがあるのが魅力のひとつ。

たっぷり撮影をしてから戻る。カフェのお客

さんに声をかけ、移動してもらう事もあった。撮

影は終わってなかったのだ。突然席替えさせられ

たお客さんの表情？ ドラマ撮影に偶然出くわし

たかのように興味津々で、協力的で、笑顔だった。

店内での撮影の後、なんと一行は店の外（！？）

へ。さすがに店員一人くらいはカフェに残っただ

ろうって？ いや、カフェに残ったのはお客さん

だけ。それでもお客さんはくつろいでいた。

何だろう、この空間どこかに似ている……。

撮影の合間にはココナッツの実を器にしたT

特製カフェラテをもらった。メニューにはない、

というか初挑戦らしい。なんでココナッツの実が

あったのかはわからない……。ただ、言えること

は美味しかった。ありがと！



このカフェ、チエンマイから帰る直前にも寄った。ゆったりした心地良さに誘われて。

ああ、そうか。ここは子どもの頃の友達の家

だ。あのお客さん達も。僕と同じで、この優しい

空間に浸りに来ていたのかもしれないな。

11. March, 2018

文章
骨ゆん

写真 (タルト・窓)
Rakuda Photo
Artisans and Cafe
(Tah and Khim)

写真・ページデザイン
水野 閑

おい、ネズミが
スライヤンダ



ねずみに負けた。



恐竜絶滅考

sin



地球外からの侵略

テナーラ
ニンゲンジャ
ネエ!!

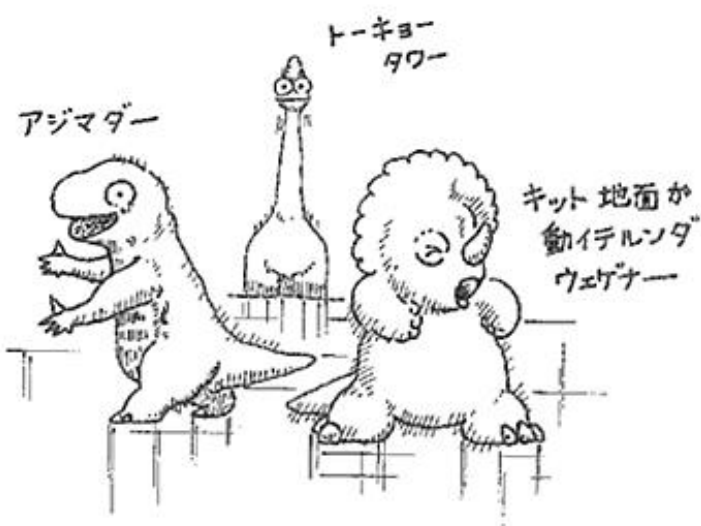
ムムタイツッ!



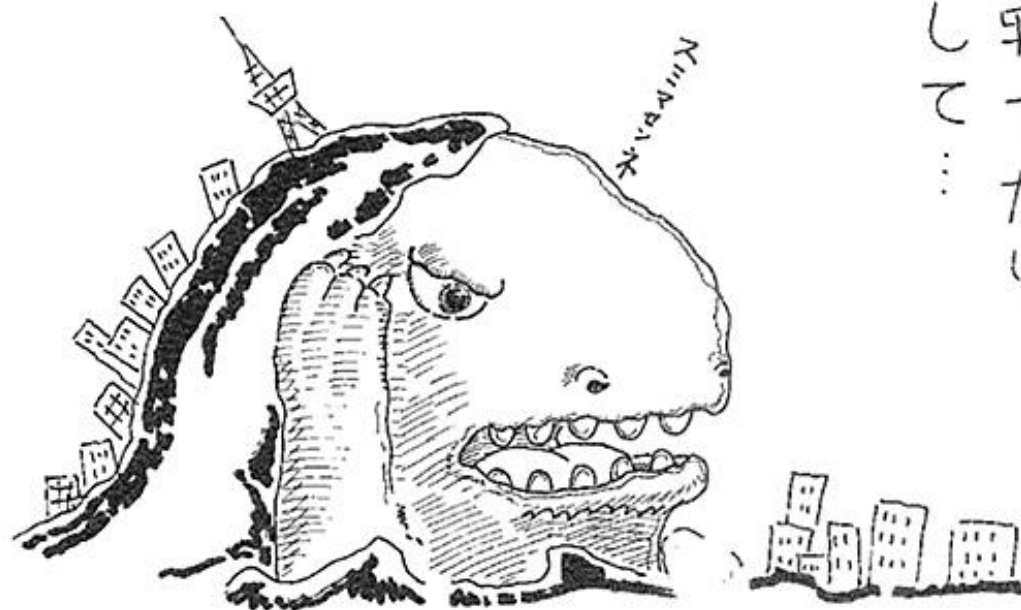
発達しすぎた科学力



進化の頂点に達したカレラは
宇宙のタカミへと進出して
いった。

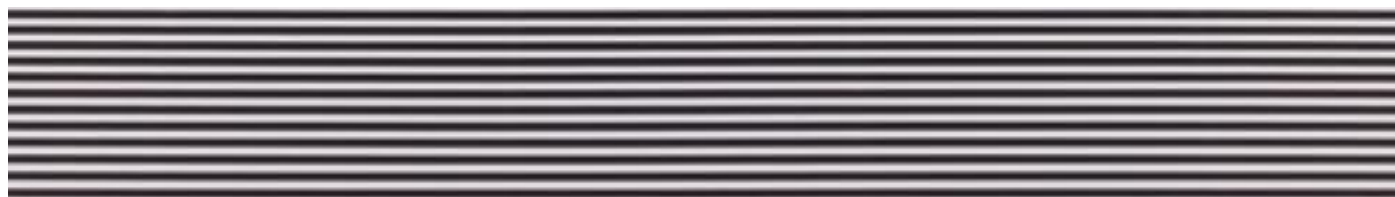


集団ノイローゼ



ほんとに、地下で
寝てたり
して...





雨上がりの虹

営業の帰りに公園のベンチに座った。今日の営業は失敗だった。会社の新しいソフトの売り込みだったが、担当者には鼻であしらわれた。「実績のない会社とは取引はしません」と言われたのだ。雨が上がったばかりで、あたりにはぬれた芝生の匂いが漂っていた。

ため息をついて、自動販売機で買ってきた缶コーヒーのブルタブを開ける。いつもブラックばかり飲んでいただが、今日はコーヒーの甘さを心地よく感じた。口の中に感じる苦味が一瞬和らぐ。会社に帰ったら、また上司に怒鳴りつけられるだろう。「お前は無能だ」とか「もうやめちまえ」という上司の言葉が恐ろしい。

今の会社をやめようかと思う。もともと自分に営業は向いていないのだ。そう思った時に、「あっ、虹だ」と公園の誰かが叫んだ。見上げると、青い空に大きな虹が掛かっていた。虹を見るのは久しぶりだ。それでも何の感慨も浮かんでこない。子供の時にはあんなに感動したのに。

「虹、虹、虹」と叫びながら小さな男の子が走ってきた。男の子は、彼の横で転んでしまう。膝を強く打ったようだ。顔がくしゃくしゃに歪んでいる。そんな様子を見て、彼は思わず息をのんだ。「だいじょうぶ？」思わず立ち上がって、声をかける。

男の子はしばらく倒れたままだったが、やがて起き上った。顔をしかめているが、泣こうとはしない。お母さんらしき人が追い付いて、彼に声をかけた。

「どうもすみません」

「いえいえ、だいじょうぶでしょうか？」

「こうちゃんだいじょうぶだもん」

男の子は起き上がって、口を尖らせながら言った。

「偉いね、こうちゃん」

お母さんは、男の子の頭をなでる。

「こうちゃん偉いね。男の子は簡単に泣かないよね」

彼がそう言うと、男の子は大きくうなずいた。

バイバイと親子に手を振って、彼は歩き始めた。胸が軽くなっている。空を見上げると、虹はまだ消えていなかった。

姉ちゃんは桜だ

桜の下に立つと十七で死んだ姉のことを思い出す。姉が亡くなる十日前のことだった。その頃には病気のために歩けなくなり、車椅子に乗っていた。桜を見たいと姉が言ったので、私は車椅子を押して、病院の庭に植えてある桜の所まで連れて行った。

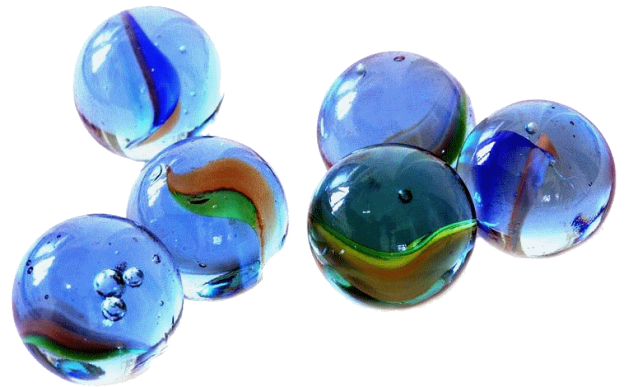
風の強い日だった。無数の花びらが風に舞っていた。姉は散っていく桜をじっと見つめていた。

「桜に生まれれば良かった」姉はぼつりと言った。私は何も言えなかった。それでも、姉の言うことは分かる気がした。桜は散るときも美しい。でも、人間は苦しみながら死んでいくのだ。死んだあとは腐敗が始まる。人間の死に際は美しくないのかもしれない――。

「姉ちゃんも桜だ」

思ってもいなかったことを口走ってしまった。小学校の時の徒競走で、一生懸命に走る姉。私に勉強を教えてくれた時の真剣な眼差し。姉が好きだった人がお見舞いに来てくれた時のほにかんだ顔。手術を受けるときに唇を噛みしめて「わたし頑張る」といった時の凛々しい顔。記憶の中の姉はみんな綺麗だった。

姉の目から一筋の涙がこぼれた。私は自分の言ったことが恥ずかしくて、口を閉じたままで桜を眺め続けた。



青いビー玉

ポケットの中からビー玉が転がり出した。きれいな水色をしたビー玉で、まるで今日の青空を固めて作ったように見える。ふと気になって、後を追いかけた。私はちょうど会社帰りだった。ビー玉で遊ぶような歳ではない。

ビー玉はゆるやかな坂道をどこまでも転がっていく。私鉄の駅から続いている坂で、両側には桜が植えてあった。今は葉桜の状態だが、みずみずしい緑色が目に心地よかった。ビー玉は空き缶にぶつかって、小さな金属音をたてた。ビー玉の転がる勢いが弱くなったので、私は腰を落としてそれを拾った。

ビー玉なんか持っても仕方がないと思う。それでも、捨てるのは惜しい気がした。私はそれをポケットの中に入れて、歩き出した。なぜポケットの中にビー玉が入っていたのだろうか。一人暮らしで子供もいない。満員電車の中で紛れ込んだのだろうか。

おかしいこともあるものだと思ひながら、歩き続けた。決して嫌な気分ではない。スキップしたいようなワクワクした気持ちが、胸の奥に潜んでいる。子供の頃に友達と遊んだ時のことを思い出した。ビー玉で遊んだこともある。

今はあの頃と大違いだ。冴えない中年の男。生活のために惰性で会社に毎日足を運んでいる。胸が躍るような思いをしたことは最近全くない。

ふと気が付くと、無数の青いビー玉があたりを転がっていた。ビー玉の転がる速度は少しずつ上がっていく。私はいつの間にかビー玉と一緒に駆け出していた。この青いビー玉たちと旅をしたいという狂気じみた願望が湧きあがってくる。しばらく走ると、ビー玉はきらきらと光るようになった。西の空の夕日が反射しているのだ。ビー玉のきらめきを眺めながら、私は走り続けた。

～HUMMING PANDA COLLECTION～



①私の初めてのお友達☆ベルギーから日本へ一時帰国した際(9ヶ月頃)に、パパからプレゼントされたものだよ♪
いつでもどこでも一緒に、保育園に預けられた時も、片時も離さなかったそう。今でも大切に部屋に飾っているよ♡



②愛用中のトートバッグ♪パンダ作家さんである大西亜由美さんのイラストがキュート♡制作に2年かかったという味のあるパンダさん(めいぐるみ)の癒しの表情の缶バッジを付けて、お出かけすれば、ときめき度アップ↑↑



③亜由美さんのポストカードの中で特にお気に入りの3枚☆♪音楽・スイーツ・読書と、私も大好きなものに囲まれて幸せそうなパンダさんを見ていると、心が和むね♪サイン会では、この裏に可愛いイラストと私の名前も描いてくれたよ♡
<http://panda-life.net/>



④京都を訪れたときに、お土産屋さんで見つけて一目惚れしたハンカチ♡ずっと愛用していたので、もう一つGET☆



⑤絵本作家ユニットである tupera tupera さんの話題作!!パンダの知られざる秘密がここに・・・!?子供はもちろん、大人もビックリ・・・!!読み聞かせの枠を超えた寸劇で、老若男女問わず、楽しませてくれた亀山達矢さん。サイン会ではイラストにメッセージも添えてくれたよ♪



My Recommendation of Movie☆☆☆ & Music♪♪

☆①『坂道のアポロン』



JAZZに、友情に、恋に、青春に真っすぐな登場人物たちに、深く感情移入せずにはいられない……！！
劇中何度も涙が溢れ、人生で大切なことは何であるのか考えさせられた。この作品の見どころは、登場人物たちのJAZZセッションシーンである。特に、知念侑李演じる薫と中川大志演じる千太郎が、学園祭でトラブル収束のために奏で始めたピアノとドラムでのセッションシーンは、まるでライブを観ているかのような高揚感と感動を得られる。ピアノ経験ゼロの知念君が、ダンスの振り付けの如くピアノの先生の指の動きを覚え、楽譜なしで習得した『Moanin』の見事な演奏にも注目☆☆

☆②『未成年だけどコドモじゃない』



ここまでキラキラしたラブコメディはあるだろうか？ビジュアルもキャストも内容も豪華☆☆お金持ちのお嬢様である香琳（平祐奈）を、お金目当てで結婚した尚（中島健人）と、香琳に想いを寄せ続けているお金持ちの幼馴染である五十鈴（知念侑李）という2人の王子様を取り合う映画。と言えば、それまでだが、3人がそれぞれ傷付きながらも成長していく、微笑ましくも頼もしい内容になっている。注目すべきは、五十鈴と香琳の舞踏会での優雅で華麗なダンスシーン・五十鈴と尚による男同士の火花飛び散る決闘シーン・サッカーボールが当たって宙にぶっ飛んだ香琳が尚に助けられて恋に落ちるシーン。

☆③『金メダル男』



ウッチャンナンチャンのウッチャン（内村光良）が、監督・原作・脚本・主演を務める最高のエンターテインメント作品！！笑いの才能が抜群であるのはもちろん、感動の嵐を呼び起こす達人でもある。金メダルをとることに一生を捧げた男の物語をこんなにも濃密に魅力的に表現できるのは彼しかいないだろう。また、W主演で若き日の泉一（主役）を演じる知念侑李の演技も彼の才能と魅力がこれでもかというほど光っており、これまで見せることのなかった新たな面を幾度となく見せてくれ、ファンとしても大変楽しめる内容になっていた。特に、高校の文化祭で表現部として一人で坂本龍馬の一生を、得意のダンスやバク宙といったアクロバティックな演出で、ダイナミックにかつ華麗に演じる姿は、この上なくカッコよく印象に残っている。何度失敗しても、あきらめず、目の前のことに一生懸命立ち向かう泉一の姿に勇気をもらえる映画である。また、この作品にピッタリのテーマソング『私のサンクチュアリ』（作詞・作曲：内村光良）も、劇中だけでなく、映画を観終わった後も、ずっと脳内再生され、思わず口ずさんでしまうくらいに残るメロディとフレーズで、大変お気に入り♪（DVDの特典映像にスペシャルPVが収録されている☆）♪ここは私のサンクチュアリ・ひとりぼっちのサンクチュアリ・私はここで輝くの・星屑のように輝くの♪

♪1.『坂道を上って』-小田和正-



♪あの坂道を上る-そのたびに-僕らは-みんな大人になって行った♪

この曲を聴くと、『坂道のアポロン』のあのシーンが蘇ってくる……！キャストも絶賛のこの映画にピッタリな小田氏の名曲♪郷愁溢れるイントロから、小田氏の透き通った歌声が聴こえてくると、青春の懐かしさや儚さが自然と蘇ってきて、胸がギュッと締め付けられるような感覚に襲われる。□映画のロケ地に使われた長崎・佐世保での、穏やかでゆったりとした日々、のどかな風景を思い浮かべながら、優しく寄り添ってくれる小田氏の歌声に耳を澄ましていると、それとは裏腹に、熱く込み上げてくるものがある。

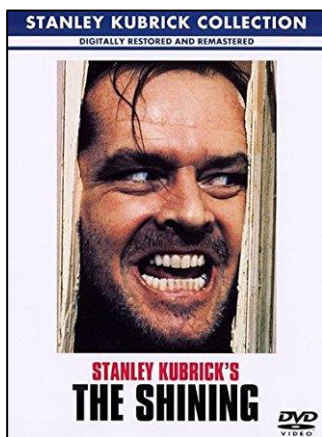
♪2.『White Love』-Hey! Say! JUMP-



究極のラブソングでありながらも、人生全般に通じる歌詞もあり、非常に勇気づけられる。特に、♪僕らは-きっと-ただ-幸せになるため-生まれてきた♪というフレーズでは、「人生を思いっきり楽しもう！」と改めて感じさせてくれた。また、♪心に-咲いた花を-優しさで育ててゆこう♪という表現も素敵で、自分もこのように生きていきたいと感じた。曲のタイトルとは対照的な黒のシックな衣装で踊る9人の姿(PV)も必見！水飛沫を背に優しくも麗しい表情で歌い、花が咲くようなダンスを魅せるメンバーの姿（特に知念君の笑顔☆）もオススメ♪（映画『未成年だけどコドモじゃない』の主題歌）

夜も眠れる初めてのホラー

怖いものは苦手、グロ耐性無し、でもホラーは気になる貴方に！
ホラー初心者の Pochi が、あらすじをすっ飛ばしてオススメします！
今回はホラー映画編！



シャイニング (1980)

←お父さんの顔があまりにも有名な作品。
血がドバーなシーンがありますが、量が尋常ではないので最早芸術の域。効果音も贅沢に使い、曜日のテロップにも「ババーン!!」なぜそこで…。

雪が積もって外出できない時、締め切りが近いのにスランプに悩んでいる時なんかにオススメですが、友達とワイワイ突っ込みながらも見れる楽しい映画です。

All work and no play makes Jack a dull boy All work and no play makes Jack a dull boy!

グロさ：★★★★☆ 後味の悪さ：★★★★☆ びっくり（脅かし）：★★★★☆

インシディアス 1 (2010) 2 (2013)

これは脅かし多めのダークファンタジーと言っても過言ではないですね。予告は大変恐そうですが安心してください！夢には出ません！霊媒師もお茶目で好感が持てます。家族愛の話なので、（あまりに幼い子には勧められないですが）家族で見るのもよいのでは。

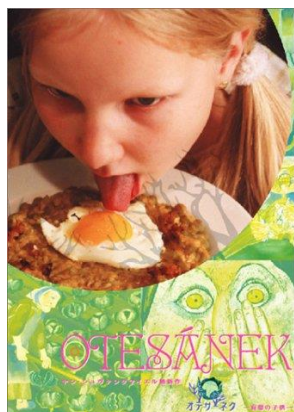
1を見たら記憶が鮮明な内に、是非2も続けて見てほしいです。

1でモヤッとした部分諸々の真相が明らかになるので…！

私はあまりに2でスッキリしてしまったため、これ以降のシリーズを見れてません…。



グロさ：★★★★☆ 後味の悪さ：1★★★★★ 2★★★★☆ びっくり：★★★★★



オテサーネク (2000)

TUTAYA ではドラマに分類されますが、個人的にはホラーに入れてよいと思います。登場人物の狂気とオテサーネク自身のビジュアル、十分ゾッとする事請け合いです。オテサーネクの食事シーンがややグロなので注意。

←この目玉焼きのせご飯が、作中で一番美味しそうな食べ物です。ベチャットしたお粥のような物の出現頻度が高いです。チョコレートぬちゃぬちゃ。あまり食欲をそそらない場面が多いので、食事中の視聴はオススメしません。

グロさ：★★★★☆ 後味の悪さ：★★★★☆ びっくり：★★☆☆☆

クリムゾン・ピーク (2015)

画像検索した方はご存知かと思いますが、赤いゴーストが出てくる映画です。ビジュアルは強烈ですが、思っていたほどは怖くないです。日本的な奥ゆかしさのある幽霊のようなものです。それよりも気をつけてほしいのが、屋敷へ着く前に突如出てくるグロ。痛い！

雪が積もる地域の割に大胆な吹き抜けのせいで住みにくそうですが、エレベーター完備の屋敷。凝った装飾が素敵なので、ゴシック系が好きな方は是非（屋敷を）見てください。



グロさ：★★★★☆ 後味の悪さ：★★★★☆ びっくり：★★★★☆



IT (2017)

最近の映画なのでポスターを目にした方も多いのではないのでしょうか。ピエロ恐怖症でなければ見れます。ムッシャーされるシーンはややグロですが、基本的に彼は脅かすことを生業にしているようです。私は諸事情で二度映画館で見たのですが、脅かされるシーンをわかっていても体がビクッとしました。

再三言われているとは思いますが、少年たちの青春&友情要素も強いです。この映画を見て思い出したのが『ミス・ペレグリンと奇妙なこどもたち』(2016)。こちらはファンタジーですが、子どもたちが協力し合って異形に立ち向かう様は近いです。

グロさ：★★★★☆ 後味の悪さ：★★☆☆☆ びっくり：★★★★★

とあるひと時

冬桐

「このコーヒー、おいしい」

「ありがとうございます」

コポコポ……

サイフォンの中のお湯が沸騰する音と店内に流れるジャズの音。

今、この場で流れる音はこの二つだけ。

そして、空気を震わせる私たちの声のみ。

「サイフォンって、どうしても家じゃできないのよね。」

今はいろいろとコーヒーメーカーって新しいのができているけど、どうしてもお店のものって特別じゃない」

「こちらとしては、“お店の味を家でも” という謳い文句はちょっと」

「あら、どうして？」

「店での味ができてしまったら、ここに来る人たちの“癒し” が提供できないでしょ」

少し困ったような笑顔で言う。

そう言いながら、珈琲豆を丁寧に挽いていくその手、その音、匂い。

ここに来る人たちが、音や手つき、雰囲気によって癒されていることを、この人は知っているのだろうか。

『そんな人だから、ここに来る人はひっきりないのよね……』

今は、ちょうどいつもお客さんがいる間と間の時間。

店主と二人きり。

嬉しいようで、少し照れ臭い。

「……。ねえ、マスター」

「なんですか」

ミルを挽く手を休めないものの、やさしくこちらの声に反応してくれる。

「もし、マスターが人生の最後の最後でできることがあるとしたら、何がしたい」

ちょっとした、唐突の一言。

答えはきっとわかっているのに、聞きたくなってしまった。

「そうですね……。やはり、ここでずっとお客さんのために珈琲を淹れて、お出迎えして待っていたいですね」

ほらね、やっぱり。

優しいあなたはそう答えると思っていた。

珈琲の少しの苦みと酸味は、そんなあなたの優しさを現している。

「やっぱり、好きだな……」

そんなあなたの姿勢が。

仕事に対する、貴方の優しさや熱意。

そして、仕事に対するプロ意識……私を奮い立たせるもの。

一杯の珈琲とここにいる時間で伝わってくる。

「ありがとうございます」

こちらの不意の呟きにも優しく答えてくれる。

「ごちそうさまでした」

カップの白さが際立つように珈琲の粉が残っている。

この一杯で残りの仕事が頑張れる。

そして、明日もこれからもずっと頑張れる。

「またいらしてください」

ドアベルが鳴り、外へ出る。

マスターの優しい声とともに、私は背を押される。

マスターの様に、自分の仕事に優しさと情熱をもって仕事をするために。



皆さんは『さんまのスーパーからくりテレビ』という番組を覚えているだろうか。替え歌等様々な企画で、ぶっ飛んだ素人を多数発掘した番組なのだが、私はその中でも「ご長寿早押しクイズ」がお気に入りだった。予選大会等を経て選ばれた3人のご長寿が、早押しクイズを10問行い、その正解数を競うという物だ。どのご長寿たちも毎回ハチャメチャな解答を連発し、そればかりか、お茶に入れ歯を入れたり、突然靴がないと言い出したり、他のご長寿の解答中に眠ったりと、常にスタジオの芸能人たちや視聴者を笑わせてくれた。その当時学生だった私も、「年取ったらこうなるんやなー」と笑っていたのだが、高齢者施設で働くようになってから、「あの人たちは認知症だったのでは」と思うようになった。ネットを見ても、同じように思っている人はたくさんいるようで、「認知症を笑いものにしている」という意見もたくさん見かけた。しかし、かつて高齢者施設で働き、認知症高齢者と接してきた私は少し違う意見を持っている。そこで、今回は「ご長寿早押しクイズから見る認知症高齢者への接し方」と堅いタイトルで攻めてみたいと思う。

まず、私はご長寿早押しクイズ肯定派である。たとえあのご長寿たちが認知症だったとしても、あのコーナーは面白かったし、ご長寿たちも笑っていた。じゃあいいじゃんって感じなのである。私が勤めていた高齢者施設でも毎日笑いが溢れていた。鏡に向かって挨拶をしたり、やかんと鞆を間違えたりと、単純に毎日面白いことが起こるのである。それを「認知症でこんなことも分からなくなってる…」と嘆いたって仕方ない。認知症の人だってテレビに出たっていいじゃん、芸人より面白いし、アイドルより癒されるんだもんって思っちゃうのである。「いや、あれはヤラセやで」という意見も多数あるようだが、私が言いたいのは「ご長寿たちの言動は軽度認知症高齢者のそれに極めて似ており、司会の鈴木司朗氏の対応は大正解だ」ということなのである（ご長寿たち、ただの天然ボケだったらごめんなさい）。高齢者施設の職員が皆鈴木司朗的な人だったら、誰もが穏やかに暮らせるんじゃないかと思ってしまうくらいなのである。

鈴木司朗氏の凄いところは、①引きつける②リスペクト③受容、主にこの3点である。まず①引きつけるについて。認知症の症状はと聞かれて、徘徊を思い浮かべる人は多いと思う。徘徊中に事故にあう高齢者も多い。中には自転車で10キロ以上徘徊したという人もいる。しかし早押しクイズのご長寿たちはどうだろう。誰も席を立つことなく（たまに立ち上がるご長寿はいたが）クイズに集中しているのである。これはなぜかという、徘徊というのは認知症の中核症状ではないからである。認知症だから徘徊するのではなく、認知症のために自分が今いる場所などの情報を忘れてしまい、「何か手がかりを探さなきゃ」「とにかく家に帰ろう」と歩き出すのである。そりゃあ私たちだって、いきなり知らない場所に放り出されたらウロウロするだろう。それと同じなのである。

つまり、認知症の方が「一体ここどこやねん」と不安になることなく、「ここ楽しいやん」「もうちょっとここおるか」と思えたら、徘徊は起こらないのである。そう、鈴木氏はそんな居心地のいい環境を作り上げ、ご長寿たちをクイズに熱中させているのである。しかも1対1ではなく、1対3。すごすぎる。私が思うに、最初の自己紹介、途中の鈴木氏の歌、フリップを使った問題を数問入れる、このあたりがご長寿を飽きさせない工夫なのではないだろうか。

次に②のリスペクト。これは、鈴木氏からご長寿たちへの尊敬の念が表れているということである。私もそうだったのだが、長年認知症高齢者に接していると、まるで子どもに接するような口調になってしまいがちである。しかし鈴木氏はぶれない。おそらく百人以上のご長寿と接してきたであろうに、砕けた口調になったり、簡単な単語に置き換えることもなく、クイズの司会者という立ち位置を貫いている。これは案外難しいことなのである。私はそこに、鈴木氏からご長寿たちへの敬いを感じるのである。

最後に③の受容。これはご長寿たちのありのままを受け入れることであり、福祉の基本でもある。鈴木氏は決して、ご長寿たちの長い演説、謎の解答を途中で止めたりはしない。最後まで微笑んで聞いており、時には「その通りですね」等優しく一声かけてあげているのである。だからこそご長寿たちもバンバン発言することができるのである。どれだけ理解できないことを言われようが、否定せず、受け止める。そうすることで認知症の方は不穏にならずに、ここにいてもいいと思えるのである。だからご長寿たちはあんなに積極的で、そしてあんなに笑っているのである。

鈴木氏には他にも、話し方や視線の合わせ方等、素晴らしい部分がたくさんある。私は、全国の高齢者施設の職員研修でご長寿早押しクイズのVTRを利用してほしいと本気で思っているのである。



蔵書票(Ex-libris)

コットン

- ・本の所有者を明示するために作られた版画などを用いた美術小紙片で本の見返しに貼ったものを蔵書票という。
- ・ヨーロッパにおける初期の蔵書票はほとんどが「紋章型」だが 1600 年代後半から「堆積書物タイプ」や本の持ち主の環境を表現した山や湖など自然の風景と家や人物を組み合わせた蔵書票が出てくる。18 世紀半ば頃から寓話的・比喩的蔵書票も出現する。蔵書票の制作はアイデアが重要でそこが一般のグラフィック・アートとの最大の相違点。
- ・日本では古くから文字による蔵書印が発達していたので蔵書票の創成期は明治後期と言われている。
- ・蔵書票初期にデューラーが蔵書票(当初で Ex-libris とは記載されず)を作成。
- ・西洋ではアールヌーボー以降、多様な指向のアート性を帯びた蔵書票が多く作られた。
- ・アールヌーボー及びアールデコ以降の作家
 - ①フランツ・フォン・バイロス：量・質共良いロココ調のエロティックな作風
 - ②ミヒェル・フィンゲステン：量・質共良いキュビズム的な表現
 - ③ハインリヒ・フォーゲラー：当初は牧歌的な作風を得意とした
 - ④ジェッシー・マリオン・キング：アールヌーボー&アール・デコに貢献した



図 1:通称ハリネズミと言われる世界最古の蔵書票(1450 年～)



図 2:英国王室ウインザー文庫の紋章型蔵書票

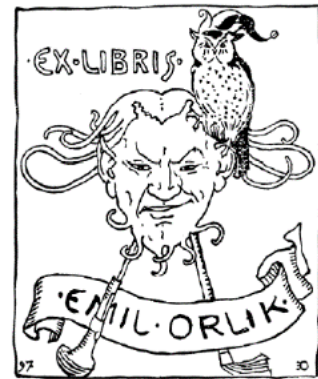


図 3：日本で紹介された最初の蔵書票。エミール・オルリック作(1900 年)



図 4：夏目漱石著『漾虚集』日本初のカット図の蔵書票(1906)



図 5：アルブレヒト・デューラーが作った蔵書



図 6：フランツ・フォン・バイロスの蔵書票



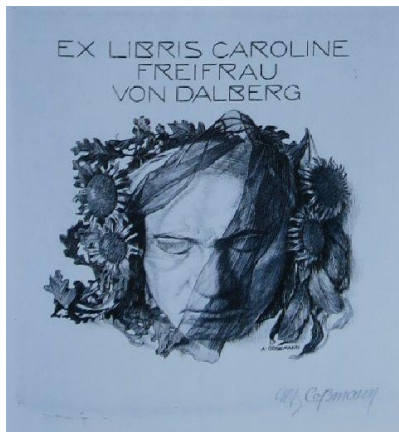
図 7：ミヒェル・フィンゲ
ステンの蔵書票



図 8：ハインリヒ・フォー
ゲラーの蔵書票



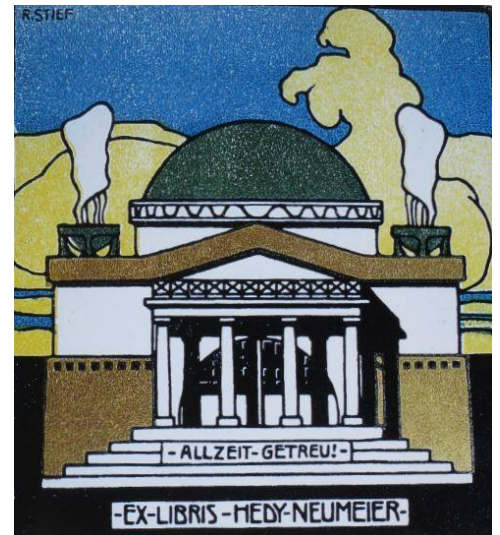
図 9：ジェッシー・マリオン・キ
ングの蔵書票



アルフレッド・コスマンの
ベートーヴェン肖像書票



マチルデ・アーデ
(メーテルリンクのために)



カール・シュティーフの蔵書票

参考文献：

『蔵書票の魅力』 樋田直人

『黄金期の西洋蔵書票』 クリフ・パーフィット

『本の中の小さな宇宙 蔵書票と蔵書印』 国立国会図書館

『西洋の蔵書票—バイロスとアールヌーヴォー』 内田市五郎

『フィンゲステン・エロスの夢—アール・デコの蔵書票』 内田市五郎

★『ジンジンする ZINE6』

作品提供：お気に入りの皆様 編集・発行：コットン

Copyright (C) ジンジンする ZINE